
■ 第 23 回福祉社会学会大会 プログラム
2025 年 6 月 28 日（土）・29 日（日）
会場：関西学院大学（西宮上ヶ原キャンパス）G 号館

◇第 1 日目 6 月 28 日（土曜日）

10:30—11:30 研究委員会 【208】

11:30—12:45 理事会 【209】

12:30 受付開始

13:00—15:30 自由報告

【第 1 部会】子ども・家族・育ち 【203】

司会：松木洋人（早稲田大学）

1. 社会的ニコチン依存度に影響する要因
—社会関係の役割—

池田裕（法政大学）

2. 母子世帯の母親の就労と子どもへの虐待経験
—子育て世帯全国調査を用いた検証—

夏天（国立社会保障・人口問題研究所）

3. ひとり親男性のケア実践における男性性の解釈実践

谷本成星（大阪大学大学院）

4. 助産院における食事支援の検討
—協働をめぐる支援者たちの工夫と課題—

江島ゆう花（日本女子大学）

【第 2 部会】介護・支援と制度 【204】

司会：大岡頼光（中京大学）

1. 放課後等デイサービスと R6 年度制度改定
—支援者らの回顧的・情動的な語りを事例に—

志田圭将（北星学園大学大学院／日本学術振興会）・
○白石恵那（東京大学大学院）・江頭早紀（津田塾大学大学院）

2. ドイツの高齢者介護の職業訓練における理論学習と
実習とのずれに関する一考察 —看護介護専門学校
を対象とするインタビュー調査から—

鈴木由真（関西学院大学）

3. 四年制大学における合理的配慮の規定への対応状況
と課題 —大学調査結果を踏まえて—

山村りつ（日本大学）

15:30—15:45 休憩

15:45—18:15 自由報告

【第3部会】地域と支援ネットワーク【203】

司会：田中里美（都留文科大学）

1. 若者を対象とした居住支援の内容と重要性に関する
考察 ―居住支援法人と居住支援団体への調査から―

鄭馨（千葉大学大学院）

2. つながりすぎない「協働」
―実践者の支援ネットワークの意味づけに着目して―

桑山碧実（大阪大学大学院）

3. 移動困難者の地域自立生活を支える福祉有償運送の
課題 ―NPO 法人 B のケーススタディー―

畠山明子（星槎道都大学）

4. 市町村における地域包括支援センターの設置動向

杉浦真一郎（名城大学）

【第4部会】言説・歴史・理論【204】

司会：桑畑洋一郎（山口大学）

1. 「声」が聴かれてきた/聴かれてこなかった子どもたち
―『子どもの声』言説』の変遷の記述―

赤城拓（京都大学大学院）

2. 地域福祉の政策化にともなう事例の言説分析
―未解決の生活課題をめぐる言説の不在―

松端祐介（京都大学大学院）

3. 福祉社会学における政策史研究の在り方の検討
―副田義也のアプローチを基盤として―

中野航綺（日本大学）

4. 福祉とワークフェアの連続性
―Piven and Cloward 理論をもとに―

小林勇人（日本福祉大学）

◇第 2 日目 6 月 29 日（日曜日）

午前の部

9:00 受付開始

9:30—11:30 自由報告

【第 5 部会】格差・貧困【203】

司会：丸山里美（京都大学）

1. 子ども食堂言説にみる deservingness の問題

—Q&A コミュニティサイトの投稿から—

豊島伊織（京都大学大学院）

2. 持続可能なホームレス支援とは

—民間非営利セクターへのインタビューから—

○松崎良美（青森県立保健大学）・岡本菜穂子（上智大学）・グライナー智恵子（神戸大学）・金田美穂（株式会社ミヒータ）

3. 母子世帯における所得と暮らし向き評価の趨勢的变化

稲葉昭英（慶應義塾大学）

【第 6 部会】当事者性・生活実践・コミュニティ【204】

司会：本多康生（福岡大学）

1. 母親から支援者への変化のプロセス

—発達障害児の親の会運営者の語りから—

栗田朋香（京都大学大学院）

2. 脳性まひ児・者の生活再構築プロセス

—当事者の語りの分析から—

酒井宏美（九州大学大学院）

3. 沖縄県・大阪府におけるハンセン病療養所退所者の
集団的実践について —回復者の会の成立のプロセス
と活動内容に着目して—

千歩弥生（中央大学大学院）

11:30—11:45 休憩

総会・昼食（11:45－12:45）【202】

会長講演（12:45－13:15）【202】

社会分析のための福祉社会学

高野和良（九州大学）

13:15－13:30 休憩

午後の部

13:30－16:30 シンポジウム「地域を生きる／地域と生きる ―排除を前にして何ができるか―」 【202】

司会：御旅屋達（立命館大学）・大日義晴（和洋女子大学）

討論者：三井さよ（法政大学）

企画趣旨説明

1. 併存性障害を有する人の『(老い) 衰えゆくこと』を支える―IARSA でのフィールドワークを通じた考察―

相良翔（埼玉県立大学）・石橋康
（NPO 法人茨城依存症回復支援
協会）

2. 『ケアの倫理』は何を包摂しないのか？―他害・触法の
障害支援から経験的・批判的に再考する―

樋口拓朗（東京大学大学院）

3. つながりの中で生きる ―『抱樸館北九州』での支援を
事例として―

稲月正（北九州市立大学）

4. 認知症とともに生きる場所について考える―排除／包摂
の二項対立を超えて―

浮ヶ谷幸代（自治医科大学客員
研究員）

ディスカッション
